

八千代オイコス かわら版

第10号

平成 21年 1月 1日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

年頭のご挨拶

代表理事 川瀬 純一

明けましておめでとうございます。

例年なら新しい年を迎え希望ある一年としたいと抱負を述べる年の初めも政治・経済・社会問題どれをとっても非常にネガティブな状況に置かれている今、我々一人ひとりが行うことは何かをじっくり考える時期ではないでしょうか。

昨年は2年連続の首相投げ出しと言われた退陣があり、秋に新内閣が発足しました。しかし、この時期がきっかけの様にアメリカの金融危機に発した世界不況が日本へもすさまじい影響を及ぼし、年末には猛烈な寒波となって襲いかかって来て多くの労働者人員削減が実施されました。この深刻な不況は、年改まった今年へ続くものと憂慮されます。

毒入りギョーザ事件に端を発し、食の安全をおびやかす重大な事件が次から次へと発生し、国民の食生活に大きな警鐘がもたらされた年でもありました。僅か40%程度の食糧自給率の状況の中で圧倒的な輸入で補われている食糧事情の日本に改めて「安全な食品」とは何か大いに考えさせられた一年でした。

悪化する地球環境の対策が世界規模で進められています。しかし地球温暖化の傾向は刻々と進んでいることは日々感ずる事が多くあります。異常高温、ゲリラ豪雨といった気象現象は昨年の特徴的な事態として記憶に残ります。

先に記した食糧自給率は日本の問題ばかりでなく、水不足に悩む地域の食糧不足地支援を目標に「北海道洞爺湖サミット」で食糧増産が主要国の課題として討議されました。

我国の農業実態に合わせて考えるとどんな政策が検討されるのか興味深い問題です。

さて、代表を引き継ぎ8ヶ月がすぎました。就任の抱負に「会員の増員」、「新しい企画の提案」、「花輪川の親水公園化」、等述べましたが特筆される進展は無く、ひたすら今年度の事業に沿った活動に終始している状態です。

しかし現在の活動メンバーによる事業活動はスケジュール履行には体力的に精一杯というところで、活動のグレードアップや新しい事業展開にはやはり人員増加の実現に努力しなければの思いでいっぱいです。

我々の活動原点である地域交流、まちづくりへの貢献を目標に「花輪川プロジェクト」、「印旛沼連携プログラム」を中心に地道な活動を継続することが肝要な事と思います。

夏の定番事業である「川の学校」の更なる充実化、地域の連携活動への取組みとして、「印旛沼わいわい会議」や行政との協働で「里山保全活動」等に積極的に参加することも重要な事です。

花輪川の清掃活動、花壇造り、或いは米作りの体験を通して環境学習で得たものは、これからのオイコスに大きな力となって益々培われる事でしょう。今後の活動に一層反映させてゆきたいと思います。

最後に2009年が皆様にとってより良い年となります様お祈り申し上げます。



“花輪川フェスティバル in 高秀牧場” 開催

～子どもネットの皆さんを交えて～

花輪川フェスティバルを11月9日(日)に開催しました。

このフェスティバルは花輪川周辺の方々に花輪川活動をご理解を頂くために親睦を兼ねて毎年行われているものです。今年は夏に行われた「川の学校」の参加者と子どもネットの方々にもご参加頂き、オイコスメンバーも含め総勢40名を越える賑やかな催しになりました。

朝は高秀牧場のご主人にもお出まし頂き、絞りたての牛乳をご提供頂きました。子どもネットの皆様には豚汁の係をお願いしました。

この日は寒い1日でしたが、牛乳と豚汁は温かくて美味しく大変好評でした。バーベキュー、焼きそ

ばなども美味しく、屋外で話しながらの食事はまた格別なものがあります。子ども達にも楽しんでもらおうと竹ポックリ、竹とんぼ、松ポックリの炭焼きなど、たくさんの企画を用意しました。また、ビンゴゲームを行い、参加者全員にオイコスのメンバーが市内の田圃を借りて収穫したお米や楽しい景品をゲットして頂きました。

例年通り高秀牧場の搾乳見学や桑納川周辺のゴミ拾いなどのクリーン作戦にもご協力頂きながら秋の一日を思う存分味わって頂くことが出来たと思います。お土産として、我々が作成した竹酢液や竹炭をお持ち帰り頂きました。また今年の秋にも企画致しますので是非ご参加ください。(翔)

子どもネットの皆さんから、すばらしい感想が寄せられました

- ・こまを作ってくれたり、竹ポックリで遊んだのが楽しかった。
- ・虫捕りを一緒にしてもらったのがうれしかった。
- ・牛を見れたのが、なかなか出来ない事なのでとても新鮮だった。
- ・たき火が楽しくて、そばを離れられなかった。
- ・おいしくていっぱい食べました。
- ・楽しかったです。ありがとうございます。

(大和田西さくらんぼサークルの6人の子ども達)



- ❖ 朝から天気は曇りで寒い日でしたが、オイコスさんが焚き火を焚いて温かく迎えてくれました。最近焚き火はあまり出来なくなっていますので、とても良い経験を子どもにさせてやる事ができました。子ども達は、焚き火に竹をくべては火を見守り、大はしゃぎでした。火の中で竹が音を立てて割れる様子など普段出来ない経験ばかりでした。若竹で作ったぐい飲みは家で早速使わせて頂きました。たいへん香りもよく、ぐい飲みで飲んだ焼酎の味も格別でした。

竹細工、炭焼き、乳牛の搾乳見学、川の周りのゴミ拾い・・・など色々企画して頂いて大変楽しい一日でした。オイコスさんには、企画だけでなく子供達にも温かく接して頂いて、たいへん感謝しております。また、ぜひ家族で参加したいと思います。ありがとうございました。

(八千代台 年長さんのお父さん)

- ❖ 自然の中で楽しみながら子ども達とゴミ拾いをしたり、オイコスの皆さんと出会いがあったりとても有意義な一日を過ごせました。お土産に頂いた「竹酢液」は、さっそくお風呂に入れたらとても温まり、家族に好評でした。素晴らしい企画に参加させてもらって良かったです。

ありがとうございました。(大和田西 2児のお母さん)

販売も好調・今年もエコメッセに参加

9月7日、幕張メッセにおいて「第13回エコメッセ 2008 in ちば」が開催された。今年もオイコスが参加し、活動の展示や竹炭等の販売を行った。地球温暖化防止、循環型地球環境保全、水の浄化、リサイクルなどのテーマに、100を越す企業、行政、市民団体が体験コーナーや音声を加え工夫を凝らしたブースを作っていた。

オイコスも「川の学校」を中心にその目的、意義及び成果を写真入りのパネルで丁寧な説明を心掛けた。多くの人に興味を持ってもらい用意した「川の学校」の小冊子、かわら版、パンフレットは持ち帰る人がほとんどで残らなかった。竹炭、竹酢液も新しいパネルが効を奏したのか販売も順調だった。

他団体の活動も身近に見聞でき、今後の活動にも参考になった一日だった。(島)

立派な成果品が出来ました・竹炭焼

10月2日、3日、佐々木会員宅の常設釜で竹炭焼を行った。周囲は稲刈りが終わりサギが10羽ほどエサをついばんでいたのどかな場所だ。

前日の1日に孟宗竹の充填を行った。理由は二つ。火災が直接竹炭に当たらないこと、もう一つは釜への材料の搬入、搬出の効率化であった。

10月2日早朝に点火。一日中かかっても釜出口温度が100を超えず燃料を燃やし続けた。夕方、一旦止め、翌日早朝再開。合計36時間を要し夕方5時、作業を終了した。冷却期間を十分とった11日、釜出しを行った。期待通り光沢のある金属音のする成果品が出来た。

延べ16名の参加者だったが毎回新しいことにチャレンジし楽しい中にも心ときめく何かを感じてゆきたいと今後も挑戦を続けていく。(島)

「印旛沼わいわい会議inいんざい」報告

印旛沼の再生に向けて皆が一緒に行動していく為、平成16年度から市民・NPOと行政が一同に会して、文字通り「わいわい」話し合う事を目的に「わいわい会議」がスタートして6回目の会議が11月16日(日)印西市文化ホールで開催されました。

佐倉市をスタートし八街市・八千代市・船橋市・成田市と印旛沼流域の各市を巡回し、印西市のこの日は印西市長の挨拶から始まり、印西市から「印旛沼の姿・現状」、千葉県から「流域水循環健全化の取り組み、将来像」の紹介がありました。

午後は、4つの分科会に分かれ、オイコスは第1分科会で「花輪川プロジェクト」の取り組み説明と「川の学校」の活動状況を説明しました。(川瀬)

オイコスの参加者 分科会 川瀬・島・高畑
分科会 加藤・桑波田

「こんにちわ”ふれあいまつり」に参加

八千代市市民活動サポートセンターの第5回「こんにちわ”ふれあいまつり」に参加しました。今回は会場を村上の「フルルガーデン」から緑が丘の「イオン」に移しての開催でした。

参加団体が17団体と従来より若干少なめでしたが2階のアゼリア広場とローズ広場の2つの会場に分かれてステージ発表と展示発表が行われたたくさんの参加者でにぎわいました。

オイコスも活動展示と竹炭、竹酢液の販売を行いましたが大変盛況でした。また、ポスターコンクールではオイコスのポスターが1位に選ばれました。前回の2位に続く受賞でした。棚田さん、田邊さん力作を有難うございました。(翔)

＜編集会議の様子がJコムで放映されました＞

かわら版10号の編集会議を11月12日(水)サポートセンターで開催しました。会議には9名の方が参加し、1月1日発行に向け、ディスカッションが活発に行われました。

当日は、八千代市広報部広聴課より、この会議の様態と川瀬代表の談話がTV取材され、12月1日～15日の間、JコムTV「八千代ナビ」の番組で放映されました。サポートセンター活動の一貫として、オイコスがこの施設を利用する状況が取材されたものです。我々にとって良いPRになったと思います。(田邊)



☆☆ オイコス会員寄稿 ☆☆

オイコスの仲間が趣味や日頃の活動などを通しての自己紹介です。

「AK18歳の高畑 傳です」

高畑 傳

オイコスに追っかけ入会致しました。自称、AK (After kanreki) 18歳 高畑 傳です。

私は神田の生まれの都会子です。第一の人生は中小印刷業の発展を願い印刷技術、需要開拓、経営法の研究と人材育成の45年でした。

第二の人生は自然の中で自給自足の生活をするのが夢でした。茨城県鹿島郡大野村に単身赴任しました。先ず野菜作りの畑開墾、海水から塩+苦りづくり、豆腐づくり、味噌づくり、蛭育成、米作りの田圃開墾、竹炭、竹酢、ビール、どぶろく、焼酎作りの12年間でした。

昨年、古巣の西船橋に戻りました。鹿嶋の夢忘れられず、インターネットで色々模索する内に生物多様化を旗印に河川浄化、米作、蛭、炭焼きと同じことを実践されているオイコスさんを発見し喜び勇んで後期高齢者の身の程も忘れ、会長、事務局長さんをお願いして入れて頂いたのです。

皆さんの足を引っ張らないように懸命に努力いたしますので宜しくご指導下さい。



【編集後記】

今年は無年。千葉は酪農発祥の地ですが八千代市も成田街道を挟んで大きな牧場がありました。現在、牧場の跡地に建つ大和田西小の校章は牛をデザイン化したもの。「地味でもやさしく、強たくましく、そして誰からも愛されるように」そんな思いが込められているのでしょうか。

この「かわら版」もささやかでも着実に情報を発信し続け永く愛される広報紙でありたいと願うものです。(geta)

「後の世代に豊かな自然を」

小原 克子



主人の転勤の度に引越しがあり、各地の小さな自然を観てきました。その度に樹木や野鳥や生き物への関心が深まりました。八千代に越してきた20年程前には緑が丘駅周辺は山林と沼地でした。双眼鏡を持参してはジョウビタキやアオジなどの野鳥を観察していました。今では珍しくなったカシラダカやコゲラ、コガラなども図鑑で確認しながら鳥の名前を覚えてゆくのも楽しいものでした。私の影響もあり、主人も「ホタルフォーラム」に関与しましたが、その頃のホタル調査では数百匹というヘイケボタルの乱舞に感動しました。今や住宅開発が進み、野鳥のヒレンジャクもシメも見られなくなり、ホタルの絶滅地域も多くその数を減らしてしまったことはちょっと寂しいことです。ここ数年秋になると、緑が丘駅前のケヤキの木をめぐらにしようとするスズメやムクドリの大群での喧騒が見られますが、林の伐採でめぐらを追われた鳥たちの叫びに聞こえます。しかし、八千代市北部にはまだ自然が残されているようです。

オイコスの一員として、後の世代に豊かな自然を少しでも残して行きたいと思っています。

発行責任者 川瀬 純一

事務局&問合せ 小原 翔

☎ 047-450-4663

(メール) info@yachiyo-oikos.jp